

おくすり通信

No. 15 水虫（足白癬）

こんにちは、薬剤科です。夏になると水虫（足白癬）に悩まされる人が増えてきます。今回は足白癬の概要と治療薬について解説していきます。

《水虫とは》

水虫とは足白癬の俗称で、皮膚糸状菌（白癬菌）という真菌（カビ）が原因で足に生じる感染症です。皮膚糸状菌はケラチンを栄養源とし、高温多湿の環境を好みます。足ふきマットやスリッパを共有することで菌が付着しますが、感染が成立するまえに足を洗えば感染を防ぐことができます。足白癬を放置していると爪の周囲の皮膚から爪に感染して爪白癬になることもあります。

小水疱型（汗疱型）	趾間型	角質増殖型
足の裏に小さな水疱ができ、水疱が破れて皮がむける。	足の指の間の皮がむけたり、白くふやけたりする。	足の裏全体が硬くなる。ひび割れを伴う。
季節で変動（暖かくなると症状が出る。涼しくなると収まる。）		季節で変動なし
放置すると爪白癬を合併		爪白癬合併

《足白癬の治療薬》

足白癬の治療に用いる外用薬は一般用医薬品としても売られています。医療用と同一成分の含む一般用医薬品もありますが、皮膚科で診断を確かめてから使用するようになしてください。

- 軟膏：刺激性が少ない。軽度のふやけやひび割れを伴った部位に使用。
- クリーム：浸透性が強い。べとつかず、薬剤の伸びがよい。乾燥した部位を中心に広く使用。
- 液剤・スプレー：使用感がよく簡便。刺激による皮膚炎を生じやすいので、ただれた部位などは避ける。

足白癬に使用する一般用医薬品の抗真菌成分の例と特徴

ラノコナゾール（医療用：アスタット）	イミダゾール系：皮膚糸状菌以外にも抗菌力をもつ。
テルピナフィン（医療用：ラミシール）	アリルアミン系：ケラチン親和性、貯留性
ブテナフィン（医療用：メンタックス）	ベンジルアミン系：ケラチン親和性、貯留性

足白癬では症状がなくなった後も1～2 か月は薬の使用を継続します。

《爪白癬の治療薬》

爪白癬の治療は医療用医薬品の内服薬、あるいは外用薬を用いて治療を行います。

爪白癬の治療に用いる医療用医薬品

テルピナフィン（内服）	1日1回125mgを6か月連続投与
イトラコナゾール（内服）	パルス療法（1日400mgを1週間内服後3週間休薬×3サイクル）
エフィコナゾール（外用）	内服困難例に使用
ルリコナゾール（外用）	内服困難例に使用 5%外用液を爪白癬に使用できる。（1%は適応なし）

そのほか、気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。